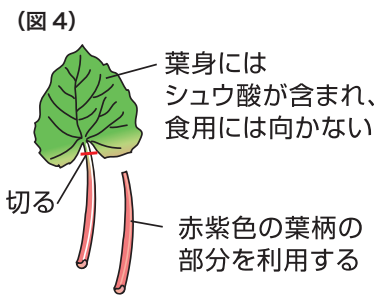
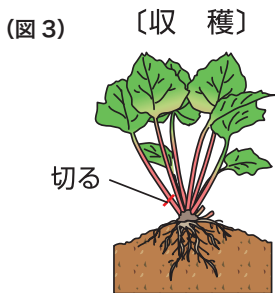
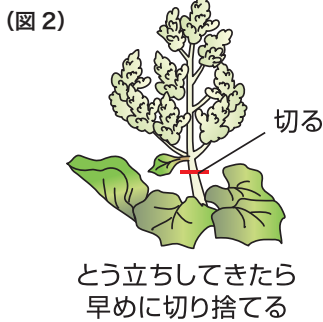
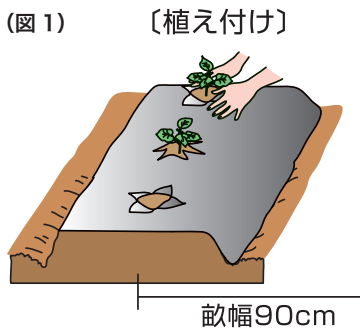




ルバーブはシベリア南部が原産のタデ科の多年生野菜です。一般に知名度は低いものの、ギリシャ、ローマでは紀元前から医薬品として栽培されていたとされる野菜で、ヨーロッパやロシア、特にスイスの山地の自家菜園ではよく見られます。強い酸味はジャムに最適。その他に砂糖漬け、シャーベットなどにも利用できます。使い方が分かれば、村おこしの商品としても魅力があります。

草丈は50〜60cm、葉幅30〜35cm、葉柄の太さが3〜4cmにもなる大株に育ちます。一度植えておけば、



冬には葉枯れしますが、翌年再び勢いよく伸び、長年そのまま栽培できるほど強健な野菜です。

紅茎種と緑茎種がありますが、紅色の色濃い物が望ましいです。「ピクトリア」「マンモスレッド」などがありますが、国内では品種ごとに手に入りにくいので、単にルバーブとして販売されている物、ネット通販などで、種子または根株として買い求めます。一番簡単なのは2〜3月ごろに栽培している人から根株を分けてもらい、畑に植え付けることです。

種子から育てる場合には、十分暖かくなった3月中旬〜4月中旬に種まきし、本葉5〜6枚の苗に育てて畑に植え付けます。寒さと乾燥には強い種子ですが、耐暑性は弱く、耐湿性も低いので、気候が冷涼で排水良好な場所が最適です。

大株に育つので、十分間隔を取り、畝幅90cm、株間50cmぐらいの

疎植にしてください(図1)。畝の中心に深さ25〜30cmの基肥溝を掘り、完熟堆肥と油かすを施し植え付けます。夏〜秋の生育中に2〜3回、油かすと化成肥料を追肥します。7月ごろにとう立ちし、やがて白い花をにぎやかに咲かせますが、このように放任しておくと草勢が衰えるので、とう立ちし始めたころに早めに取り除きましょう(図2)。

収穫は、5〜6月の生育盛りに2週間に1回ぐらい、葉の付け根から2〜3枚ぐらいずつ行います(図3)。梅雨明けごろから生育が鈍るので、徐々に収穫を減らしていきます。

利用するのは赤紫色の葉柄の部分です。黒色フィルムを被覆して軟化处理をすると葉柄の赤色が鮮やかになり、品質が良くなります。

なお、広い葉の葉身の部分にはシュウ酸が多く含まれているので、利用はできません(図4)。

肥料・農薬のご紹介

たまねぎのべと病に

ベトファイター

顆粒水剤 100g入



たまねぎ栽培で注意すべきはべと病です。べと病は、予防が大切です。定期的な防除心がけましょう！

特に天気の悪い日が続くときは要注意！毎年、べと病・疫病に悩まされている方はぜひ一度、お試しください。



■主な特徴

- ① 長い効き目と高い予防効果で、持続的にべと病の発病を抑えます。
 - ② 病気の始めに散布しても治療的な効果を発揮し、進行を抑えます。
 - ③ 優れた浸透・移行性があり、散布ムラに強い。
- 予防効果だけでなく、発生初期段階での治療効果も持ちあわせているため、便利な農薬です。
- 使用される際は、展着剤を合わせて使うと効果が安定します。
- 登録内容等をご確認の上、ご使用ください。